

【フィジー】

未来への架け橋は、 100メートル！

「自分たちの手で作り終えたことが大きな自信になった。」
そう人々が胸を張る橋が、フィジー第二の大河に完成した

Close Up!

ジャイカの
あしあと



首都スバのあるヒチレブ島南西
部をゆったりと流れるシンガ
トカ川。このフィジー第二の大河
の上流、ナンドロゴ・ナボサ県ナ
サトゴ地区に青年海外協力隊員
(土木技術)の小田晃史さんと地域
住民が協力して一本の橋を築き上
げた。総延長100メートル。フ
イジー国内では五指に入る。
橋の完成を誰よりも喜んだのは、
ナサトゴ地区にある3つの村の住
民たちだ。村から地域商業の中心
地、シンガトカの町へと続く道の
途中にはシンガトカ川が立ちはだ
かる。学校や病院、教会に通うた
めに馬や徒歩で川の浅瀬を渡って
は対岸へと出かけ、また農作物の
販売や買い物でシンガトカの町に
足を延ばすにも、車なら1日の道
のりに2、3日をはかる日々。日
常生活の不便さに加え、大雨で川
が増水すると、水が引くまで交通
が遮断されてしまうなどの問題も
深刻だった。

現場監督を務めた小田さんとも
もに橋の建設を担ったのは、有給
の作業員5人と周辺の村から手伝
いに来る住民たち。皆、土木工事
の経験はほとんどない。小田さん
は施工方法を解説し、砂とセメン
トの配合によるコンクリート作り
や鉄筋の加工・組み立てなどの技
術を手ほどきしながら慎重に歩を
進めていった。そして、工事開始
から約9カ月後の2005年9月
川底を深さ1メートルまで掘り、
セットした型枠に鉄筋を固定し、
コンクリートの土台を打ち込んで
橋げたを架ける。工事の要とな
る、川の中での困難な作業も一同
で力を合わせて乗り越えられるよ
うになったころ、橋は完成した。
工事中は近くの村に泊まり込む。
日が暮ればヤングナ のうたげの
始まりだ。ヤングナを酌み交わし
過ぎ行く時間を仲間とともに慈し
むうち夜は更けて、いつしか日中
の疲れもほぐれていく。観光客の
喧騒を一步離れば、人々の暮ら
しには今もそんなフィジアン・ス
マイルが息づく。
橋の完成を受けて、現地では車
道の建設も決まった。こよい人々
が喜びと一緒に
に飲み干すヤ
ングナは、さ
てどんな味だ
ろうか。



コシヨウ科の木の根を粉碎して溶いた伝統的な飲み物。カヴァとも呼ばれる。鎮静作用があり、さまざまな儀礼にも使われる。